

## 2 教育課程経営の意義と機能

教育課程の意義や概念に関する文献は、これまでも数多く出ているが、本研究の教育課程経営に関する文献は数少なく、特に、経営的発想に基づき教育課程を見直すということをも具体的・实际的に述べている文献はほとんど見あたらないのが現状である。従って、このままの状況で、直ちに、教育課程経営の意義や機能について論述するのは難しいので、概念規定については次年度以降の研究にゆだねることにする。

教育課程の展開を意味するものとして、「教育課程の管理」、「教育課程の経営」などの用語が用いられているが、本研究では、前項で述べた学校

経営の意義と機能に照らし、それらの諸説に共通した基本的な考え方に基づきながら、教育課程経営の意義と機能、さらには経営的発想による見直しの観点へと理論を構築していくことにする。

### (1) 教育課程経営に関する諸説

教育課程経営に関する用語について考えてみると、先に述べたように、「教育課程の管理」と「教育課程の経営」の二つを挙げることができる。管理と経営の概念は後述することにするが、教育課程経営の意義と機能を解明することから考えた場合、次の諸説にはおのずと相通ずるものがあると思われる。従って、この諸説の吟味をとおして、教育課程経営の概念を明らかにしていきたい。

① 教育課程の管理				
著者		牧 昌 見	下 村 哲 夫	伊 藤 和 衛
著書	県教育庁義務教育課編 「学校教育の手引一新版」	「現代学校経営用語辞典」 第一法規	「現代の学校経営— その計画と実践」 高陵社書店	「教育課程の目標管理」 明治図書
内 容	<p>教育課程を管理するということは、教育課程の編成、実施、評価改善という一連の活動が、適切かつ効果的に行われるよう配慮し、必要な手だてを講ずることをいう。</p> <p>即ち、教育課程がどのように編成され、計画され、実施され、どのような教育効果をあげているかを的確に把握し、これらについて必要な指導助言、連絡・調整等の措置をとることである。</p> <p>教育課程管理の機会は、①計画段階における編成管理、②実施段階での実施管理、③評価段階での評価管理の3過程になる。</p>	<p>教育課程の管理とは、学校における指導計画を効果あらしめるための諸条件の整備とその運営をいう。</p> <p>学校が教育指導を展開するに当たって、教育課程の編成、実施、評価の一連のサイクルが有効に働くことがもつとも重要である。このサイクルを効率的・能率的に働かすことが管理である。</p> <p>このために必要な組織づくりとその運営が課題である。一定の制約条件のなかで、いかにしたら効果的な教育実践を可能にできるかが管理の仕事である。</p>	<p>教育課程は編成の段階の計画管理、その計画が予定どおりに進行しているかどうかをチェックする実施管理、そして、計画に掲げた目標にてらして評価する評価管理の三段階が考えられる。そして、この計画—実施—評価は一つのマネジメント・サイクルとしてとらえられなければならない。</p> <p>目標を定めて計画を立て実施に移し、その結果を目標にてらして評価する。そして、この評価が、また、次の計画にはねかえられなければならない。こうしたサイクルは一つ一つの単元にもあり、おのおのの教科にもあり、教育課程全体にもある。教師の主體的な努力に支えられた計画—実践—評価の日常的な積み重ねこそが、やがて教育課程の改善につながるのである。</p>	<p>教育課程の管理は、その計画管理、実施段階における授業管理、そして評価管理が近代管理としてのマネジメント・サイクルに合致していなければならない。マネジメント・サイクルとは「管理の循環」ということであり、教育課程の管理がマネジメント・サイクルで動くということは、教育という仕事の連続的な流れとしてとらえるということである。しかも、この流れは、直接的な上方から下方へと向かう一方的な流れではなく、上方から下方そしてまた、下方から上方へと円環現象としてとらえられなければならない。即ち、管理もこの環流に即してあるわけで、それがマネジメント・サイクルなのである。それはPlan（計画）Do（実施）、See（評価）というシエマをもってあらわすことができるのである。</p>